

## プレスリリース

2023(令和 5)年 1 月 18 日  
一般社団法人 日本船舶電装協会

### 船舶電気装備技術者の資格検定試験に 172 名が合格

(一社)日本船舶電装協会は 2022 (令和 4) 年度の「船舶電気装備技術者資格検定試験」を、10 月 12 日(水)の札幌を皮切りとして全国 7 カ所の会場において実施しました。その結果、受験者 213 名(対前年度比 53 名増)のうち 172 名(対前年度比 38 名増)が合格し、合格率は 80.8% (前年度 83.8%) でした。受験者数が増加した要因として、船舶の IT 化・電動化の進展に伴う船舶電気装備技術者のニーズの増加、同技術者の世代交代の進展とともに、試験実施時期における新型コロナウイルス感染拡大傾向の一時的な落ち着きを挙げることができます。会場では安全・安心に配慮して万全の感染防止対策を講じるとともに、その内容を予め受験者の皆様にお知らせしました。

今年度の受験者の平均年齢は 32.7 歳(前年度 33.6 歳)で、受験者のうち女性は 5 名(前年度 2 名)でした。船舶電気装備事業の特徴の一つとして、地方を含む全国各地に立地していることを挙げることができますが、受験者の中には親族の高齢化に伴い出身地に戻り新たな職場に就いたとする声が聞かれました。

当協会は試験前日に「学習コーナー」を開設し、受験者が事前に受講している通信教育の疑問点等についての理解を深めるため、当会指導技師が指導にあたりましたが、受験者の熱意と所属する事業者の熱い期待が感じられました。試験結果は、12 月 6 日(火)に開催された学識経験者及び有識者により構成される船舶電気装備技術委員会(委員長:林 尚吾 東京海洋大学名誉教授)において、最終的な合否が判定され合格者が決定しました。これらの一連の事業は、当協会が公益財団法人 日本財団の支援を受けて実施しています。

検定試験は、①船舶電装士②主任船舶電装士③船舶電装管理者④航海用レーダー整備士⑤航海用無線設備整備士の五つに分けて実施し、合格者には協会から技能資格者としての証明書が交付されます。

これら技能資格者の数、その他の国が定める要件を満たした会員事業場が、国の地方運輸局等から「船舶電気ぎ装工事を行う事業場」、「航海用レーダー等装備・整備事業場」又は「GMDSS 設備サービス・ステーション」の証明を受けた場合、船舶検査において自主検査の結果を国、日本小型船舶検査機構(JCI)等へ書面で提出し認められると、船舶検査官等による立会検査の一部が免除されます。

### 2022（令和4）年度の資格検定試験の概要

検定試験の種類	受験者数	合格者数
船舶電装士	82名	68名
主任船舶電装士	47名	32名
船舶電装管理者	8名	8名
航海用レーダー整備士	38名	31名
航海用無線設備整備士	38名	33名
<hr/>		
全体	213名	172名
前年度	160名	134名

お問い合わせ先

（一社）日本船舶電装協会 技術部  
電話 03-3504-0858